

【岡山】パラアスリートヘルスケア外来開設「中四国のパラアスリート支援の拠点を」-大塚文男・岡山大学病院総合内科・総合診療科長らに聞く◆Vol.1

6つの専門外来は全て若い医師らの提案から生まれた

2024年2月9日（金）配信 m3.com地域版

東京パラリンピックを経てパラスポーツの注目が高まる中、岡山大学病院は総合内科・総合診療科内に2023年9月、パラアスリートのメディカルチェックを行う専門外来「パラアスリートヘルスケア外来」を開設した。同大学の持つ地域連携と総合内科・総合診療科の強みを生かし、障害や症状ごとに必要な内科的健診や診療にも広く対応する。総合内科・総合診療科長の大塚文男氏と同科外来担当医の大野洋平氏に、外来開設の経緯や特徴、現時点での手ごたえについて聞く。（2024年1月12日にオンラインでインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）

——まずは岡山大学病院総合内科・総合診療科の概要、地域での立ち位置について教えてください。

大塚 岡山大学病院は県の地域医療の中心となる特定機能病院で、150年を超える岡山大学医学部の歴史の中で、中四国地方を中心に約250施設以上の関連病院ネットワークを構築してきました。

2012年に総合内科・総合診療科を立ち上げた背景には、近年医師の専門医志向が高まる中で、地域医療の現場において全身を診る・多様な疾患に対応するというニーズが増えたことにあります。当科は内科疾患全般に対応し、複数の病気を持つ患者さんや、単独の専門科だけでは対応が難しい全身的な評価や早急な初期治療が必要な患者さんにも広く対応します。同時にスタッフの備える得意分野や専門領域を活かし、各専門科と連携しながら総合的・全人的な診療を行なっています。

当科の特徴の一つが、時代の医療ニーズに応じて設けた6つの特色ある専門外来です。不明熱外来、渡来ワクチン外来、漢方外来、最近では国内の総合病院の中で2番目に開設したコロナ・アフターケア外来（『【岡山】県内初の「コロナ・アフターケア外来」、月に15人以上受診』を参照）、自己注射サポート外来、そして今回新設したパラアスリートヘルスケア外来など、診療内容を患者さんにわかりやすく“見える化”することで、皆が集いやすい診療の場を作ることを目指しています。

また、大学病院の「臨床・教育・研究」という3つの歯車の中で、内科と総合診療の2つの専門医の育成にも力を入れています。特に総合診療医は全身だけでなく、地域や家族を診るという視点が不可欠です。一方で、中国地域では地域ごとに医療機関や診療科の数、医療ニーズにも偏りがあります。そこで包括的な視点とコモンディゼーズを学ぶフィールドを作ること、同時に大学（教育・研究）と地域（実臨床）をつなぐ“橋”を作ることを目指し、2024年現在までに、岡山県の玉野市・笠岡市・新見市・倉敷市・赤磐市・高梁市、香川県の丸亀市の7拠点で地域医療と大学を繋ぐ寄附講座を開設し、各地のフィードバックを臨床・教育・研究に活かしています。



大塚文男氏

——パラアスリートヘルスケア外来の開設の経緯は、日本肢体不自由者卓球協会（パラ卓球協会）のチームドクター、日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ医でもある大野先生が、地元で瀬戸内（まるがめ）総合診療医学講座助教に着任したことがきっかけだそうですね。

大野 総合国際大会に出場するパラアスリート（強化指定選手）は年1回、日本パラスポーツ協会が指定する診断書を作成する必要があり、それにあたり血液検査などさまざまな検査項目からなるメディカルチェック（健康診断）を受

けることが義務付けられています。現在、協会のメディカルチェックに対応する医療機関は全国に56カ所ありますが、中四国地域は鳥取県内に2カ所のみと偏りがあります。そうした現状をふまえて、私がこれまでパラスポーツに関わってきた経験を生かしてさまざまな競技の選手のメディカルチェックやドーピング対策、健康管理などに関わってみたいと考えたこと、それを大塚科長に提案したことが外来開設のきっかけになりました。

実は地元・岡山に戻ってきたのは家族や子育てのためというプライベートな理由なのですが、最適な環境として最初に思い付いたのが初期研修でお世話になった岡山大学病院総合内科・総合診療科で、専門性と総合性が共存する風通しの良い環境も魅力でした。現在は週1日まるがめ医療センターで勤務し、週3日は岡山大学病院総合内科・総合診療科、週1日は岡山市内の診療所の内科外来で勤務をしています。



大野洋平氏（以前勤務していた国立病院機構東京病院の敷地内にある「外気会記念館」の前で撮影）

大塚 6つの専門外来は全て若い医師らの提案から生まれたもので、背景にはスタッフの専門や個性、当科の総合力という強みを活かした専門外来を作り、研究や教育にも活かしたいという考えがあります。大野助教は内科総合診療とリハビリの専門をバランスよく持ち、整形外科ではなく内科的な視点からリハビリ診療ができますから、その特技を活かして新たな拠点を作り発信したいと考えました。

——岡山大学病院パラアスリートヘルスケア外来の特徴を教えてください。

大野 現在は週1回・半日の外来診療を行っており、スタッフは私1人です。対象は身体障害・知的障害のあるパラアスリート、パラスポーツに取り組む全ての方で、競技種目は問いません。パラアスリートに対しての診療内容は、診断書の作成、メディカルチェック（健康診断）、医療的支援、生活習慣病の予防や治療、ドーピング対策、クラス分けの診断書作成などがあります。

パラアスリートの中には中高年の選手や生活習慣病を有する選手もいて、年1回の受診だけでなく継続的な内科的健診や診療が重要となる場合もあります。選手の障害や症状によっては、より多面的な評価や介入が必要になることもあります。当外来が総合内科・総合診療科内にあることの強みは、内科疾患全般に対応できること、他の専門診療科とのスムーズな連携体制が整っていること。院内の他診療科、特に総合リハビリテーション部・リハビリテーション科の医師や療法士とも連携し、ドーピング対策については必要に応じて薬剤部のスポーツファーマシストと連携しています。さらに脊髄損傷者の車椅子調整など特別な処置が必要な場合には、吉備高原医療リハビリテーションセンター（岡山県吉備中央町）など県内の専門施設とも連携して診療を行います。



パラアスリートヘルスケア外来での診療風景

——パラアスリート診療の特徴、特に心がけていることは。

大野 障害を持ってスポーツに取り組めることは素晴らしいことである一方、やはり健常者とは異なる負担が身体へかかりやすかったり、適切なケアが必要な方も少なくありません。例えば、若年でも骨粗鬆症があったり、麻痺や切断などのため感覚が鈍麻して、骨折などの怪我に気づかず放置してしまうケースもありますから、診察にあたっては障害像を理解して臨むことが大切です。

また個人的に大事にしているのが、患者さんと信頼関係を築くことです。障害像をしっかりと把握するには、まず患者さんに心を開いてもらい、症状について正直に伝えてもらう必要があります。私は中学時代から現在まで卓球をプレーすることが好きで続けていることもあり、スポーツをする立場と医師の両方の立場から、患者さんの気持ちに寄り添っていかれたらと思っています。また、パラ卓球の選手とは時に実際にボールを打ち合っただけで交流することで、お互いの距離が近づきコミュニケーションが取りやすくなることもあります。

——外来開設から5カ月、手応えはいかがですか。

大野 当初はパラアスリートを支援する専門外来として開設したのですが、強化指定選手の数は全国で約1000人に対し岡山県内では10人ほどと少ないこともあり、実際に受診患者はまだ数人です。そのため現在は少し裾野を広げて、全国大会レベルの方や日常的にパラスポーツに取り組んでいる方、これから取り組んでみたい方に対してもアプローチをしています。例えば国内試合での長距離移動についての相談、これからパラスポーツを始めるにあたっての不安など、それぞれの障害や症状、競技種目によって異なる幅広い相談に応えていきたいと考えています。

◆大塚 文男（おおつか・ふみお）氏

1992年岡山大学医学部医学科卒業、98年岡山大学大学院医学研究科修了。1999年から米国カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部研究員。2003年から岡山大学医学部・歯学部附属病院助手、同大学院医歯薬学総合研究科助教、同大学病院内分泌センターセンター長などを経て、2012年から岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・総合内科学教授、2015年より岡山大学病院検査部長・超音波診断センター長併任、2017年から2023年岡山大学病院副院長、2023年より岡山大学病院総合内科・総合診療科/感染症内科科長。

◆大野 洋平（おおの・ようへい）氏

2014年福岡大学医学部卒業。岡山大学病院での初期研修を経て、2016年から練馬光が丘病院総合診療科で後期研修。2018年春にキャリアチェンジし、東京大学医学部附属病院リハビリテーション科の新専門医制度下での研修プログラムを開始。国立病院機構東京病院リハビリテーション科（東京都清瀬市）、国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション科（埼玉県所沢市）などに勤務。2017年より一般社団法人日本肢体不自由者卓球協会チームドクター。2020年日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ医、2021年リハビリテーション科専門医取得。2023年4月より岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）瀬戸内（まるがめ）総合診療医学講座助教。

【取材・文=渡辺満樹子】（写真は病院提供）

記事検索

ニュース・医療維新を検索

